

富山県・新潟県に分布する下部ジュラ系来馬層群最上部層より植物化石 *Onychiopsis elongata* (Geyler) Yokoyama の発見

著者	後藤 道治
雑誌名	富山市科学文化センター研究報告
号	9
ページ	87-88
発行年	1986-09-20
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=526

短 報

富山県・新潟県に分布する下部ジュラ系 来馬層群最上部層より植物化石 *Onychiopsis elongata* (GEYLER) YOKOYAMA の発見

後藤 道治

富山市科学文化センター

I. はじめに

来馬層群は従来より富山県・新潟県・長野県の三県にまたがって分布する下部ジュラ系として知られている。その主要分布地域は富山県と新潟県の県境を流れる境川の流域にある。水上谷層は境川の流域やその支流である上路川流域に分布し、来馬層群最上部とされている (小林ほか, 1957)・(GOTO, 1983)。水上谷層からの *Onychiopsis elongata* (GEYLER) YOKOYAMA の産出は GOTO (1983) に示さ

れているが、記載はされていない。今回、2地点より産出した *O. elongata* について報告する。標本はすべて富山市科学文化センターに保管されている。

標本の同定にあたっては東京学芸大学地学教室の木村達明教授に御指導をいただき、また、本論文を書くにあたり、有益な御助言をいただいた。ここに深く御礼申し上げます。なお、この研究に関する調査については文部省の昭和60年度科学研究費補助金 (奨励研究 B) 「課題番号60916015」の一部を使用した。

II. 産出地点と産出層準

今回報告する *O. elongata* の裸葉は境川とその水系である上路川上流の楢谷から産出した (図1)。

Loc. 1 (図1-A) [TOYA-Fo-319] (図版I-1)

富山県下新川郡朝日町太平の北400mの露頭。露頭の規模は高さ約25m、幅約70m。灰白色アルコーズ質礫岩、同色粗粒～中粒砂岩と黒灰色砂質泥岩の互層の黒灰色砂質泥岩より産出した。礫岩・砂岩が優勢である。地層の走向傾斜は約N80°E28°NW。

Loc. 2 (図1-B) [TOYA-Fo-329] (図版I-2, 3)

新潟県西頸城郡青海町上路の楢谷下流の砂防ダム左岸の露頭 (標高約350m付近)。露頭の規模は小さく、高さ約2m。幅約2.5m。灰白色粗粒～中粒砂岩と灰白色泥岩の互層の灰白色砂岩より産出した。地層の走向傾斜は約N85°E30°NW。

水上谷層については来馬層群最上部層とする意見 (前出) と、その岩相や構造上の理由から来馬層群より分離するのが妥当であるとの意見がある (山田, 滝沢, 1981)。これまで水上谷層とされてきたものの中には来馬層群の被覆岩類にあたるものも存在していると思われる、今後の野外調査によって水上谷層と被覆岩類との関係を明らかにしていく必要があ

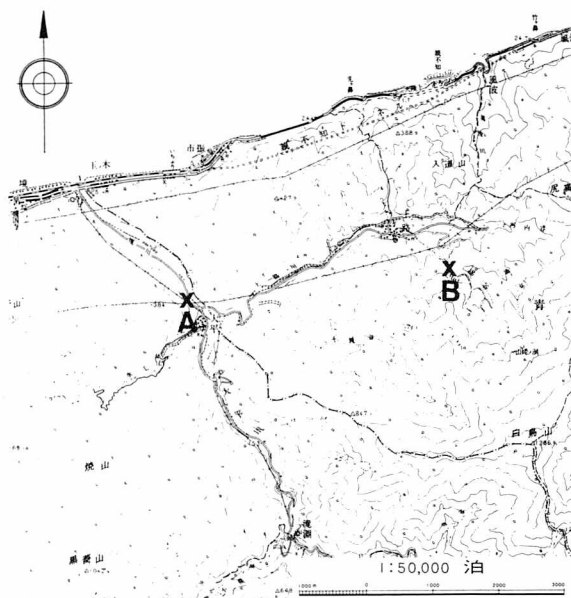


図1. 化石産出地点

る。しかし、境川と大平川に露出しているものについては、野外調査の結果、一連のものと思われるので、ここでは一応前者に従い、水上谷層を来馬層群最上部層とする。水上谷層はアルコーズ質砂岩を主体とした礫岩・砂岩・泥岩からなり、層厚700m以上。下部では礫岩の礫種は白雲母片岩・赤色凝灰岩・緑色凝灰岩・泥岩・砂岩・石英角礫などであり、上位に向かうにしたがって、礫種が少なくなり、オーソコーツァイト礫を多量に含むようになってくる。礫は角礫～亜角礫で、淘汰は不良である。砂岩や泥岩は一部に白雲母を多量に含んでいるところがある。上部では再び赤色凝灰岩、緑色凝灰岩、砂岩や泥岩等の礫種に富む礫岩になる。

III. ま と め

これまで来馬層群水上谷層より産出した化石の報告はない。また、*O. elongata* は北陸地方では手取植物群を代表する植物であり、現在まで報告されている来馬層群の植物群の構成種には見られない(KIMURA, 1980 ; 1984), (KIMURA & TSUJII, 1980-1984)。したがって、今回の標本は来馬層群の植物群およびその当時の植物地理区について考える上に、大変貴重なものと思われる。しかし、今回の産出によって来馬層群水上谷層より産出する植物化石が手取植物群に属するかどうかはまだ検討の余地がある。今後、さらに水上谷層より *O. elongata* 以外の植物化石の産出が望まれる。

IV. 文 献

- GOTO, M., 1983. Some Bivalves from the Lower Jurassic Kuruma Group of Central Japan. Trans. Proc. Palaeont. Soc. Japan, N. S., 130 : 79-84. pl.15.
- KIMURA, T., 1980. The present status of the Mesozoic land floras of Japan. Professor Saburo Kanno Memorial volume : 379-413.

_____, 1984. Mesozoic Floras of East and Southeast Asia, with a Short Note on the Cenozoic Floras of Southeast Asia and China. Geology and Palaeontology of Southeast Asia. University of Tokyo Press, 15 : 325-350.

_____ & TSUJII, M., 1980a. Early Jurassic plants in Japan, Part 1. Trans. Proc. Palaeont. Soc. Japan, N. S., 119 : 339-358. pls. 38-40.

_____ & _____, 1980b. Ditto, Part 2. Ibid., 120 : 449-465. pls. 54-56.

_____ & _____, 1981. Ditto, Part 3. Ibid., 124 : 187-207. pls. 30-32.

_____ & _____, 1982. Ditto, Part 4. Ibid., 125 : 259-276. pls. 41-43.

_____ & _____, 1983. Ditto, part 5. Ibid., 129 : 35-57. pls. 12-14.

_____ & _____, 1984. Ditto, Part 6. Ibid., 133 : 265-287. pls. 54-56.

小林貞一, 小西健二, 佐藤 正, 速水 格, 徳山 明, 1957. 来馬層群 (ジュラ系下部). 地質学雑誌, 63 (738) : 182-194.

山田直利, 滝沢文教, 1981. 来馬層群の砂岩組成からみた飛驒外縁帯の三畳紀 (?) 珪長質火山作用. 総合研究「飛驒外縁帯」研究報告, No. 2 : 64-69.

図版 I

Onychiopsis elongata (GEYLER) YOKOYAMA

1. ×1.6 富山県下新川郡朝日町大平
(TOYA-Fo-319)

2. ×1.2 新潟県西頸城郡青海町上路
(TOYA-Fo-329)

3. ×1.6 同 上
(TOYA-Fo-329)



1



2



3